学校番号	2101

令和８年度　芸術科（音楽）

教科	芸術	科目	（学）鑑賞演習	単位数	２単位	年次	２年次以上
使用教科書	使用しない						
副教材等	音楽史を学ぶ						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

西洋音楽の歴史を学びながら様々なジャンルの音楽鑑賞を通して、音楽に対する興味・関心を深めていきます。
学習の到達度は、授業で配布するワークシートで評価します。

2　学習の到達目標

・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈する。
・音楽を形づくっている要素の働きを考え、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴き、感じたことを表現する。
・音楽や音楽文化に関心を持ち、鑑賞の学習に主体的に取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

前半	「西洋音楽史」 ・古代～中世の音楽 ・アルス・ノヴァ～ルネサンスの音楽 ・バロック時代の音楽 ・古典派の音楽 ・ロマン派の音楽 ・近代・現代の音楽	人間の生活と音楽の関わりに着目しながら、楽曲の歴史的背景や時代の特徴を感じ取る。 演奏形態や歴史・時代の背景、音楽の諸要素を根拠として、音楽の良さを感受し、言葉で表す。	a:聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけて、楽曲の特徴を言葉で表している。 b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 c:時代の変化における音楽の特徴に、興味・関心をもち、積極的に感じ取っている。	ワーク シート 観察	ワーク シート 観察	ワーク シート 観察
後半	「鑑賞」 ・オペラ ・バレエ ・ミュージカル ・舞台芸術の裏側	人間の生活と音楽の関わりに着目しながら、楽曲の歴史的背景や時代の特徴を感じ取る。 演奏形態や歴史・時代の背景、音楽の諸要素を根拠として、音楽の良さを感受し、言葉で表す。	a:聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけて、楽曲の特徴を言葉で表している。 b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 c:時代の変化における音楽の特徴に、興味・関心をもち、積極的に感じ取っている。	ワーク シート 観察	ワーク シート 観察	ワーク シート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度